

ユニット成果報告会2023 議事メモ

日時：2024年5月8 - 9日

場所：管理・福利棟4階 第1会議室+オンライン

10. 位相空間乱流（小林達哉，西浦正樹）

小林氏の発表に関して

【Q：佐藤委員】電子スケール、イオンスケール同時計測について、振幅に逆相関が見られているが、それだけでシミュレーションで見られているような非線形相互作用があるといえるのか？

- ご指摘の通り、現状は計測ができていそうだとしか言えない。非線形相関解析やシミュレーションとの比較などをおこなって、背景物理に迫っていきたい。【小林】

【Q：佐竹】次期装置ではゾーナルフローを実測するところまでいけるのか？

- CHSの藤澤実験をお手本にし、計測器のセットアップを行えば直接観測が期待できる。【小林】

【C：高部委員】1年前よりわかりやすく説明されていた。高温プラズマで平衡から遠く離れた系では、乱流と速度空間計測を行なっていくことが重要であることは明白。その観測ができるようになってきたと理解した。

【C：佐藤委員】波動粒子相互作用のモデルの例が示されたが、単純な例で容易に観測を説明できるとの間違っただけの印象を与えてしまわないよう注意が必要。実際に必要なモデルはここまでシンプルではない。

西浦氏の発表に関して

【Q：小林】リアクターではNBIを使った高エネルギー粒子非等方性の制御は現実的ではない。他の方法につなげていくことは考えているのか？

- 大型炉でもNBIを用意することも考えないといけないし、垂直成分を増やすことで良ければICHを使った制御なども考えられる。【西浦】